

# 自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2ヶ月に1度のミーティングと、年に1回ある法人の職員研修の中で、理念の実践に向けて考える時間を設け、話し合う事で、統一したケアが行えるよう取り組んでいる。	法人および事業所の運営理念は事務所内の壁に貼っており、日頃から管理者が職員に対し、「自分の働いている事業所のことを理解し、それを他者に伝えられるようにしてください」と指導している。それにより、業務を詰め込みすぎず、利用者との時間を優先するという理念が実践できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週2回、近所のスーパーへ買い物に出かけている。また、地域の保育園・幼稚園と定期的に交流しており、年に1回、地域主催の祭りに参加している。	近所のスーパーに行くと、知人に会っており、同法人の通所リハからも知人が訪ねる事もある。地域活動の情報も、運営推進会議で民生委員や地域包括職員からの情報を得ており、中学生ボランティアの受け入れやその他ボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いている構成員の方や家族の方に、入居者を含めた認知症の実態を知って頂いたり、協力を呼び掛けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行事の予定や報告を伝える中で、構成員の方の意見や、他の事業所の情報を取り入れ、サービスの向上に活かしている。今年度より近隣のグループホームにも構成員として参加してもらい情報交換を行っている、こちらからも他事業所の運営推進会議に参加するなど事業所間の交流も行っている。	市の介護保険課職員の参加にて、事業所の取り組みが報告できている。他GHとの運営推進会議相互参加にて、運営推進会議の活用の仕方についても学びになっている。	詳細な活動内容が書かれた「いきいき通信」があり、それを活動報告に使用できていないとのこと。わかりやすく伝えるためにも、欠席者への報告としても、今後の活用を検討されることに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、地域包括支援センターの職員が参加し、地域の現状や他事業所の取り組み等を紹介して下さると共に、当事業所の取り組みに対しての意見やアドバイスをいただき、交流を深めている。倉敷市の介護保険課にも年に数回呼びかけを行い、会議へ参加して頂いている。	運営推進会議への参加が実現できている。日常的にも介護保険についての疑問があれば、電話にて相談しており、協力関係が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束に関する委員会があり、事業所の職員も所属している。内部研修は、年に1回行い、日々のケアでも、身体拘束になるような言動はないか等、ミーティングで話し合った上で、個人でも文章での振り返りをおこなっている。	今までも、これからも身体拘束はしないという意識。玄関や非常口の施錠もしていない。法人内での身体拘束についての勉強会も行なっており、その資料も参加者以外が閲覧している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護に関する内部研修を毎年行い、その中で高齢者虐待について学び自分達の言動が虐待につながる危険性がないか話し合っている。また、個人で文章による振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で権利擁護に関する内部研修を年に1回開催し、事業所の職員も参加している。運営推進会議で地域の方にも理解してもらおうと、情報提供を行ったり、勉強会を行ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事業所の取り組みや、考え方・行事等を説明し、理解を得ている。重度化や看取りについての対応方針は、契約はもちろん、家族交流会や面会時等で理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、日頃よりコミュニケーションをしっかりと取ることで、信頼関係を築けるよう努力している。家族や本人に対して、アンケートを行い、集計した意見や要望についてはミーティングで話し合い、反映している。	面会は最低でも月に一回は行なってもらうようお願いしている。そこで直に意見を聞いたり、年一回家族交流会があり、意見が抽出、反映できている。満足度アンケートにおいて、「ほぼ満足」という項目があいまいだという指摘もあり、改善を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見は、できるだけ早く解決しているが、すぐには解決できない問題は、ミーティングの課題として意見交換し、迅速な解決に努めている。	職員からの意見ノートや、日常的な会話から、管理者へ意見が上がっている。同法人内に様々な事業所があり、職員が子育てと両立しやすいように、異動の希望があれば取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けて、法人を上げて取り組んでいる。取得後は、法人の意向や特性を重視し、活躍できる場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の報告や内部研修は、月2・3回行う。内容は、接遇マナーや認知症のケア、介護技術面等、多方面にわたり行うことで、多くの職員が参加できるよう計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の管理者が集まる研修会や、ケアマネ交流会に参加し、情報交換や意見交換を行う事で視野を広げサービスの質の向上を目指している。今年度より近隣のグループホームの運営推進会議に参加したり、他事業所の見学に行ったりと事業所間での交流を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では、本人と心地よい距離を保ちながら、入居前提の堅苦しい話ではなく、まずは本人の気持ちを和らげ、職員が受け入れられるような環境・関係を築いていけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望を重視しながらも、事業所としての思いも伝え、双方が歩み寄りながら、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族がグループホームを希望されていても、他のサービスの方がその人にとって有益であると思われる場合には、他施設あるいは、在宅サービスを紹介する等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の悩みや思いを傾聴する時間を設け、話しやすい雰囲気の中で、共に生きている喜びを感じてもらえる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人に対する思いを大切にしながら、面会時、日頃の生活状態を伝えたり、情報交換をすることで、共に本人を支えていることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お正月の初詣には、地域の神社に参ったり、馴染みの地域をドライブしたりと、自分の育った地域ともつながりをもっと持ってもらえるよう努力している。	ドライブに行く際、利用者のなじみの場所をわざと経由している。同敷地内のデイケアから、近所の方やサロンで知り合った方が訪ねて来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を職員全員が共有し、細かい感情の変化も逃がさず、いい距離を保ちながら、注意深く見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一法人内の老健施設に入所された場合は、折にふれ訪問したり入所先のスタッフに様子を尋ねるなどして、関係が継続出来る様、法人内でコミュニケーションを取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の真意が理解出来るよう取り組んでいる。	職員間での申し送りノートがあり、それにはどんなことでも、利用者のことを書くことにしている。それにより、些細なエピソードに隠れた希望や意向を見つけられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のこれまでの生活を尊重し、理解した上で得た情報をケアに生かせるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の様子や、身体的状態を把握し、他の職員とも共有するため、申し送りノート等に記録を残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリング、6か月ごと又は、状態が変わった時に、ケアプランを作成するが、事前に家族や本人の思いをアンケートに記入してもらう。また、他職員の意見を聞き反映させ、本人にとってよりよい介護計画をつくるよう努力している。	利用者との普段の会話の中や、家族面会時やアンケートなどで意向を聞いている。主治医との情報のやりとりをノートで行っており、介護計画に反映している。また、訪問看護からの情報提供もあり、活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日記入を行い、申し送りノートを活用する事により、その日の出来事や入居者の状態を情報として共有できるよう取り組んでいる。このノートは業務開始前にチェックするようスタッフ間で統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の気持ちの変化や、家族の要望に対し、臨機応変に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に構成員や、地域包括支援センターの職員が参加することで、地域のいろいろな情報交換をすることができ、お互い良い関係を保っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との間にノートをつくり、受診時の情報交換に努めている。家族にもノートを開示し、信頼を得ている。	敷地内にクリニックがあり、2週間に1回受診している。要望があれば他かかりつけ医へも、家族送迎となるが、受診している。かかりつけ医とのやりとりをノートでも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師には、週2回の健康チェックだけでなく、小さな傷やちょっとした状態の変化等、あらゆる問題への相談や指示をもらい、早期対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、主治医や看護時との関係を密にしているため入院となった時、普段の様子を把握している主治医から病院に情報を提供している。グループホームの職員は、見舞い等で家族と情報交換し、退院に向け励ます等の支援を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の本人や家族の意向、または、事業所としての対応を入居前に話す機会を持つようしている。また、医師・看護師との連携を取りながら、安心して過ごしてもらえるよう努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、勉強会を行うと共に、法人内でも看護師による内部研修で学び体験する機会をつくっている。また、対応マニュアルを作成しいつでも閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	介護老人保健施設と合同で年2回、中国電気保安協会職員の指導のもと、日中・夜間想定避難訓練を行っている。実際の火災と同じようにベルを鳴らして通報し、避難誘導、安否確認をする。新人職員は必ず消火訓練に参加している。地震災害についても運営推進会議の構成員に参加して頂き訓練を実施した。	運営推進会議の開催日に、会議参加者が避難訓練に参加している。避難経路も色分けしてわかりやすくしており、ハザードマップやマニュアルもある。	緊急連絡網に、運営推進会議参加者や、地域の方の電話番号が入っていれば、より迅速な避難が可能と思われます。避難訓練にも参加している方々なので、ぜひ検討してみてください。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接する時は、常に人格を尊重し、本人の気持ちを傷つけないよう心掛けているが、またスタッフ同士注意し合い、気付けることで、お互いに反省につなげている。	職員が利用者の居室に入る際は、「失礼します」と必ず声を掛けるようになっている。また、耳のいい利用者もいるので、会話の内容が利用者に影響しないか気を付けている。接遇や認知症の研修にも参加し、振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めつけるのではなく、その場その場でいくつかの選択肢をつくり、できるだけ自分で決められるように促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や気分を考慮しながら本人のペースで一日過ごしていけるよう、意見を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を準備する段階で、着たい服を決めて頂き、自分らしさが表現できるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事の好みを把握し、量や大きさを調節している、同じ献立でもその人に合った工夫をし、喜んで頂けるよう努力している。又、食事の際には音楽を流し楽しく食事が行えるよう雰囲気作りにも取り組んでいる。	昨年からは外部業者に委託し、療養食も対応可能。利用者の好みに合わせて量の調節や刻んだりしている。そうめん流しや和菓子などのおやつ作りを月に1回しており、利用者に変喜ばれている。	おやつ作りを月1回ではなく、増やしたいと考えておられるので、ぜひ回数のアップを試み、利用者の食事がより楽しみなものになるよう、今後の活動に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分の摂取を記録、又は把握し、体調管理の目安にしている。水分補給を好まない人には、なるべく本人が好んで飲める物を出したり、嚥下状態が低下している方にはお茶をゼリー状にした物を提供している。脱水予防の為、入浴後には全員スポーツドリンクを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分で行える方には声掛け・見守りを行い、そうでない方には介助にて口腔内の清潔保持に努めている。また、昼食前には入居者とスタッフで嚥下体操を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、細めにトイレ誘導を行うことでスムーズな排泄が行えるよう支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、誘導を行っている。尿とりパッドやパンツなど、見直しの声が上がれば、改善をしている。実際に紙パンツから布パンツに変更し、自分でパンツの上げ下ろしができるようになるなど、自立に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の1日の水分量・摂取量を把握し、下剤の調節や腹部マッサージ等、個々の排便リズムに合わせて実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴は日曜日以外毎日行い、個々に入浴の順番の希望を聞いている。	日曜日以外は毎日すべての利用者が入浴している。浴槽は左右どちらからも出入りができる造りになっている。認知症の利用者にも安心して入ってもらえるように、誘導での言葉かけにも個々に沿った配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠サイクルを把握し、体力面を考慮しながら個々に臥床する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容はファイルに整理し、いつでも閲覧できるようにしている。薬ごとに名前が記入されているので確認しながら介助したり、配ること誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に好きな事や興味の持てるものを楽しんでもらい、気分転換になるよう支援すると共に洗濯物の干す・たたむといった事や食前のテーブル拭き等、生活の中でその方ができる事を役割として行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎朝、何グループかに分けて、施設の遊歩道を散歩している。また、定期的にドライブを計画し、外出することで季節を感じてもらえるよう努めている。	毎日の散歩や週2回の買い物など、戸外に出る機会を日常的に作っている。また、本人の行きたい場所へ出かけられるよう、家族やボランティアの協力も得ながら支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々によってお金の所持は異なるが、所持している方については、特に預る事はせず、ご本人を尊重し本人の金銭管理を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	身内に手紙を出す人、電話をかけたいと希望する人には、個々の気持ちを大切に、実現に向け支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本棚を利用者が利用しやすい所に置いたり、テレビは興味のある人、ない人を考慮し置き場所を工夫している。食堂付近のコルクボードに1ヶ月の行事予定を記入し、入居者に見えやすい様掲示している。	リビングが広く、ゆったりと過ごせるようになっている。利用者の書いた習字やちぎり絵などで、季節感を採り入れている。冬場は換気や消毒を行い、感染症の予防に努めている。また、懐かしい足踏み式のミシンがあり、現在も使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置き、個人が利用しやすい雰囲気になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前面接でお願いしているので、普段使い慣れている家具や好きな物、写真等を身近に置く事で落ち着けるよう配慮している。	広めの居室には、本人の好きな写真やカレンダー、担当職員手作りの誕生祝の絵などが飾られている。持ち込みの家具もあり、利用者一人一人の好みに合わせて、家具の配置換えも随時行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、個人の写真やプロフィールを書いて貼ることで、自分の部屋であることがわかるよう配慮している。		